

【NEWS RELEASE】

2026年1月5日

各 位

株式会社三井住友フィナンシャルグループ

三井住友フィナンシャルグループ 執行役社長 グループCEO 年頭メッセージ要旨

本日、三井住友フィナンシャルグループ（以下、当社グループを総称して「SMBC グループ」）執行役社長 グループCEO 中島 達は、グループ会社の役職員に対して以下の趣旨のメッセージを送ったのでお知らせいたします。

【要 旨】

昨年は、これまでの良い流れを着実に拡大することができた。ひとえに皆がそれぞれの持ち場で活躍された結果であり、心より感謝申し上げる。

新年を迎えるにあたり、SMBC グループの最大の財産である「信頼」について、2つのエピソードを紹介して皆と一緒に考える機会としたい。

1つ目のエピソードは、SMBC 日興証券（以下、日興）とイチローさんの信頼関係について。2001年、イチローさんが初の日本人野手として米国に渡った年、日興はイチローさんにブランドパートナーへの就任を打診する。米国での実績はこれからというタイミングではあったが、プロとして誠実に野球に向き合い、新たなフィールドに果敢に挑むイチローさんの姿に強く共感したのである。以来、イチローさんもさまざまな変化に挑戦する日興に共鳴し、折に触れてメッセージを寄せ、時には駆けつけ、社員を勇気づけてくださるとともに、どんな状況でも変わらず応援する日興に感謝の意を伝えてくださっている。日興もそんなイチローさんに感謝し、現役を引退された現在も、共に歩み続けている。

2つ目のエピソードは、SMBC グループと山中伸弥先生との信頼関係について。2008年、山中先生がノーベル賞を受賞される4年も前、研究資金の確保に苦労される山中先生に共感した社員が、支援のために立ち上がる。その社員はiPS細胞の可能性を信じ、情熱をもって周囲を巻き込み、基礎研究への寄付と研究成果の社会実装を担う会社への出資を実現。その後も、新型コロナウイルス感染症の治療法確立に向けた検査機器の寄付や、iPS細胞治療の実用化に向けた新会社への出資など、SMBC グループの総力を挙げて出来る限りの支援をしてきた。山中先生はそんな我々の姿勢に感謝し、いつもSMBC グループに対して応援の言葉をかけてくださる。

これら2つのエピソードには、お客さま、ビジネスパートナー、周囲の仲間と信頼関係を築くための大切なポイントが隠されている。

1つ目は、「信頼は、プロとして誠実に行動し、お互いに敬意を示すことで生まれる」ということ。プロとして、それぞれの分野で誠意をもって取り組み、相手の全力を尽くす姿に敬意を示す。そうする中で、かけがえのない信頼が生まれる。

2つ目は、「信頼は、お互いに感謝の気持ちを示すことで深まる」ということ。皆を信頼する方々は、皆を思って行動してくれる。それに対して感謝をしっかりと伝えることで、信頼関係が一段と深く強固になっていく。

信頼は、SMBC グループにとって最大の財産であるとともに、人生を豊かにする貴重な財産。2026年を、誠実にフェアに生きて、大切な人との信頼を育んでいく1年にしてもらえたと思う。

以上